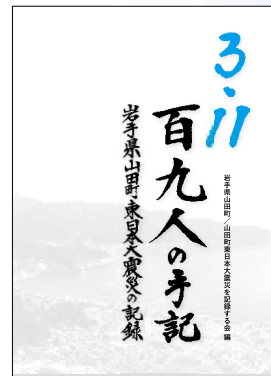


# 震災体験記集

# 『3・11 百九人の手記』を発行



本町に激甚な被害をもたらした東日本大震災から間もなく4年。町では、町民の皆さんの体験手記を集めた書籍『3・11百九人の手記 岩手県山田町東日本大震災の記録』(B6判、32

7ページ)を発行し、3月上旬、全世界帯に配布します。

本書は、震災の記憶の風化を防いで教訓を後世に語り伝え、二度と悲劇を繰り返さないため、町と山田町東日本大震災を記録する会(川端弘行会長)が共同で編集。大津波が押し寄せた沿岸各地区、山田▼大沢▼織笠▼船越▼田の浜▼大浦——と内陸で被災者支援の拠点となった豊間根・荒川地区に分け、震災当時、町内の公立校に在学していた児童・生徒や町民、警察官

などの皆さんによる合計109編の手記を収めています。

町立図書館や町民ホール(役場1階)、各公民館などでも閲覧できるほか、町ホームページ(<http://www.town.yamada.iwate.jp/>)からPDFファイルのダウンロードが可能です。なお本書は、国費による公益事業のために非売品です。ご了承ください。

◆問い合わせ 町総務課情報係

(☎82-3111内線416) へどうぞ。

## 山田町婦人団体協議会が体験文集の第3集を制作



3冊そろった震災体験文集を前にする野田会長

「一人でも多くの体験談を後世に伝えたい」。町内6地区の婦人会でつくる山田町婦人団体協議会(町婦協)は先ごろ、会員らが震災体験をつづったA4判の文集「明日へ向かって」第3集を出しました。

震災では会員350人のうち57人が犠牲に。町婦協は、各会員の直面した過酷な現実と記憶をとどめようと原稿執筆を呼び掛け、震災から丸2年の平成25年3月に第1集を発行。そのタイトルには、震災に負けずに力強く前進しようとの思いが込められています。

同年10月に第2集を刷り、第3集までに合計61人が手記を寄せました。家族を亡くして悲しみに暮れた、津波にのまれて大けがを負った、家は全壊したが命は助かった、炊き出しに精魂を傾けた…。文集には単に「被災者」と一くりにできない各人各様の体験が詰まっています。

町婦協の野田和子会長(69)は「第1集のころは記憶が生々しくて書く気になれないという人も多かったが、第3集になると将来を見すえた視点が感じられる。文集から、震災の悲惨さと共に会員の前向きな気持ちも感じ取ってほしい」と話しています。

## 震災前の路線映像を公開しています



UR都市機構は、山田町CMJV復興案内所において被災前の路線映像を公開しています。これは、東日本大震災以前に、道路走行中連続撮影した写真をつな

げ、動画にしたものです。路線は山田地区4路線、織笠地区1路線、大沢地区1路線のみとなっておりますが、懐かしい町並みを見ることができますので、皆さんお気軽にお立ち寄りください。

▷公開場所 山田町CMJV復興案内所(役場正面)

▷休業日 水曜日

▷営業時間 午前10時～午後4時

▷動画内容

①国道45号線(山田地区)

②山田地区周辺(役場～国道45線)

③山田地区周辺(八幡町～長崎)

④山田地区周辺(駅前周辺～国道)

⑤織笠地区周辺

⑥大沢地区周辺

◆問い合わせ UR都市機構岩手震災復興支援本部(☎019-601-6424) へどうぞ。